

## 横浜市の小学校で「わくわくモーモースクール」開催

令和元年12月18日（水）、横浜市立万騎が原小学校（全校児童360名）で神奈川県酪農教育ファーム推進委員会が主催する「神奈川県わくわくモーモースクール」（以下、「わくモー」）が開催されました。

「わくモー」は小学1年生から6年生の児童を対象に、牛とのふれあいを通じ、酪農という仕事を理解し、さらに命・食について学んでもらう目的で、年に一回県内小学校で開催される出前授業で、今回が12回目になります。

授業の先生は市内の酪農家を中心に乳業メーカー、県酪農業協同組合連合会、JA、行政機関の計31名が担当し、親牛1頭、子牛2頭、模擬搾乳牛1台が校庭に搬入されました。

授業内容は各先生が、校庭では搾乳体験、子牛とのふれあい、牧場の仕事の解説、家庭科室ではバターづくり、教室では牛乳や乳製品の説明などを行いました。

当課と畜産課の計4名は3～5年生（167名）を対象に教室で「牛の体の秘密」の授業を行いました。内容は、県内・市内の酪農情勢から始まり、牛の一生、牛の体の大きさや特徴、牧草を食べて牛乳を作る体のしくみ、酪農家の仕事などを、できる限りわかりやすく、クイズも交えながら説明しました。

児童からの質問は「牛は何年生きるの?」、「牛はなんで、いつも“よだれ”を流しているの?」など子供らしいものから、「オスはどうなるの?」、「お乳が出なくなった牛はどうなるの?」など“命をいただく”という、重いテーマにまで至りました。

今回の「わくモー」はPTAにも見学してもらい、児童の笑顔があふれるなか、盛況裏に閉会されました。当課としてもこのような取り組みに継続して参加し、県内畜産の理解醸成・振興の一助になればと考えています。



（写真）授業風景 左：「牛の体の秘密」の授業、右：模擬搾乳牛で搾乳の疑似体験